

平成31年2月12日(火)

大学進学と進路その2

私立大学受験まっただ中の季節であります。関西の私立は、受験日程がとても早く、2月になると最盛期を迎えます。対して関東圏の私立大学は、関西圏が終わる頃から2月の20日過ぎまで、まさしく、国立大学の前期日程直前まで、目白押しに続いていくのであります。

さらには、大学入試センター試験併用・英語外部検定試験併用・授業料免除特待生応募・フレックス・コース生などという入試システムが細分化されており、かなり綿密な研究が必要とされる時代になりました。

また、教科配点も大学独自であり、得意科目を生かす教科科目の配点が高いか低いかも重要な選択肢の一つであります。加えて、その大学独自のアドミッションポリシーをカリキュラムにどう具現化しているかや、興味深い大学独自の選択制・総合合同科目の設置など、考慮するところはたくさんあるのが現状です。

ある資格(司法試験や公認会計士・弁理士等々)取得にとっても力を入れていて、在学中に資格取得を可能にしている大学もあれば、学科横断的な科目選択が可能な総合大学である要素を生かした大学・様々な他大学との連携を薦めている大学など、現実に登校してみるとこんなにもよいところがあると改めて感じる大学は、枚挙にいとまがないと思います。

ましてや、卒業生のネットワークには定評がある大学、少人数の語学能力向上と海外留学制度に定評がある大学、さまざまな奨学生制度を豊富に持っている大学など特徴の持たせ方は、大学の努力によって日々変わっていることも確かであります。

ただし、それらすべてを網羅し、その結果、選択したところが本当にいいところであるかは、大学の教員の配置や厚生施設や学生課の人的レベル等もふくめ、かなりの学生数であるため、信頼の置ける人間関係ができるかということも大きいため、多面的評価が必要になることは事実なのではないかと思えます。

とにもかくにも、大学を選択するかどうかについては、国立大学の合否決定後に合格した私立大学も含め、親子共々様々な人々の意見を聞きながら、選択していくことが肝要なことだと思います。

入学後、自分の世界を広げていける道筋を描ける大学を選択して、その選択を信じ、大学生活を送ることが大切です。

出会いはもう既に始まっています。このチャンスを生かして、2月を乗り切っていきましょう。